

最近の消費動向（月別概況・個別ヒアリング）

29年7～9月期の百貨店・スーパーの合計売上高は、全ての月で前年を上回った。百貨店では、引き続きインバウンド需要が好調で、売上高は全ての月で前年を上回った。スーパーでは、アニサキス報道やO157報道で苦戦しながらも、天候に恵まれ衣料品や季節商品を中心に売上を伸ばし全ての月で前年を上回った。

コンビニ販売額や家電販売額は増加傾向にあり、新車販売台数は、前年同月比で2ヶ月ぶりに増加した。個人消費や緩やかに増加している。

月別概況

7月：（平年差）平均気温+1.4℃、降水量-71.0%

7月は夏季休暇シーズンを迎え、旅行需要が高まる中、航空路線の新規就航や増便等が訪日者数増加の追い風となり、関西国際空港の国際線外国人旅行客数は前年比+12.8%の130万人と過去最高を記録した。

百貨店では、猛暑の影響でUV対策アイテム（帽子・日傘・サングラス等）などの季節商品に動きが見られた。また、高額商品（美術・宝飾・貴金属）や化粧品が売上を牽引した結果、売上高は前年を上回った。

スーパーでは、相場安の影響で農産品の売上が減少し、水産品もアニサキス（寄生虫の一種）報道の影響が続き苦戦した。一方で、気温の上昇から夏物衣料やパラソル・サンダルなどの服飾雑貨の動きがよく、売上高は前年を上回った。

8月：（平年差）平均気温+0.4℃、降水量+15.0%

8月も引き続き外国人旅行客数が多く、また、残暑が厳しくなく、前年より早く秋物の動きが見られた。

百貨店では、富裕層やインバウンド需要が強化粧用品や高額商品が引き続き活況であったほか、秋色夏素材・初秋物を中心に衣料品が堅調に推移し売上高は前年を上回った。夏休み期間を利用したファミリーイベントを開催するなどの各種集客施策も功を奏した。

スーパーでは、アニサキス報道の影響により水産品や、O157報道の影響によりポテトサラダが失速した。長雨などの天候不順で夏物季節商品が低調であったが、一方で気候に左右されにくい靴や化粧品、頻度品である肌着などが伸ばし、前年を上回った。

9月：（平年差）平均気温-0.6℃、降水量-20.7%

9月は台風18号の上陸に伴う航空便の一部欠航やキャンセルもあったものの、外国人旅行客数は増加の一途を辿り、9月までの累計は全国で2,119万6千人となり、これまでで最も早いペースで2,000万人を超えた。

百貨店では、気温低下により、秋冬物を中心とした衣料品の動きがよく、婦人服を中心に好調に推移し前

年の売上高を上回った。また、インバウンドも好調で、関西地域計では、外国人旅行者への売上高、売上件数ともに過去最高を記録した（日本銀行大阪支店）。

スーパーでは、相場安の影響を受けた農産品、アニサキス報道の影響が解消されていない水産品は動きが鈍かったが、気温低下による秋冬物の衣料品が堅調に推移し前年の売上高を上回った。

百貨店 A 社

9月の売上高の状況は、気候が良く秋冬物への切り替えが順調に進んだことやインバウンドが好調であったことから、前年を大きく上回った。また、インバウンド免税売上高は、過去最高を記録した。

紳士服：スーツはやや苦戦したが、バッグ、セーター、靴、ジャケット、ブルゾンなどが好調で売上は前年同月を上回った。バッグは高価格帯のものの売れゆきがよい傾向にあった。

婦人服：婦人服は前年同月を大きく上回った。要因としては、前年同月が天候に恵まれず秋冬物の動きが鈍かったことに対して、今年は天候に恵まれ秋冬物が早めに動き出したことが挙げられる。ダウンを含めたコート類や引き続きトレンド傾向の続くスカートが好調で売上を牽引した。

子供服：秋冬物の需要があり、また外国人旅行者への売上が好調に推移した結果、売上は前年を大きく上回った。ランドセルについても例年より早い展開が功を奏し堅調に推移している。

宝飾・時計：時計は、国内顧客及び外国人旅行者の両方に好評であり高価格帯の商品が牽引し前年同月を上回った。ジュエリーに関しても高価格帯の商品の伸びが好調で前年同月を上回った。

服飾雑貨：化粧品は好調を維持し続けており、前年同月の売上を大幅に上回った。国内顧客も伸ばしたが、外国人旅行者の売上が大きく伸ばした結果である。シーズン雑貨では、手袋や帽子など季節感のあるものが好評であった。

食料品：食料品の売上は堅調に推移しており、催事を行った酒類が牽引する形で売上高は前年同月を上回った。アニサキス報道の影響が少し生魚にあったものの、野菜類は好調に売上を伸ばした。

スーパー B 社

スーパーB社の9月の売上高は前年同月をやや下回

る結果となった。客単価や買い上げ点数は前年を上回ったものの、客数が減少したことが影響した。

衣料品：月前半は靴や服飾セールを8月に前倒しをした影響で低調な動きであったが、月後半は気温の低下の後押しもあり、長袖パジャマや、長袖カッターシャツ、秋物のボトムなど、紳士・婦人ともに秋物衣料が堅調に推移した。一方で、降水量が少なかったことから雨傘などのレイングッズは苦戦した。

食料品：農産では野菜の相場が低く土物野菜を中心に苦戦が続いたものの、モモやパイナップルは好調に推移した。畜産では、月間を通して気温が低く推移したことから鍋関連の需要が好調であり、特にミルフィーユ鍋が伸長し、牛肉も好調であった。水産では、鮭が好調であったものの、水揚げ不振となったサンマは伸びを欠いた。その他の部門では、気温低下の影響からアイスが不調であり、また、前月のポテトサラダに関するO157 報道の影響でポテトサラダが失速した。一方で、ヨーグルトは好調であった。

住居関連：メーカーフェア催事が奏功し、テレビ、エアコン、冷蔵庫など大型商品が好調であった。また、気温の低下の影響から羽毛ふとんの動きが良く、新学期需要から文房具も伸長した。一方、昨年大ヒットしたフィットネス・マッサージ機やヘアケア用品などは、昨年並みの実績をカバーできず苦戦した。

旅館C社

売上高・収益：大阪市内にある旅館業C社の9月の売上高・収益は、前年同月と比べ1割減少となった。減少の背景には、近年のインバウンド増加の影響により、既存のホテルや旅館に加え、民泊や簡易宿泊など宿泊

施設の多様化が生じ業界全体として部屋数が増え、宿泊客の争奪戦となったことが挙げられる。このような背景の下でC社でも、稼働率を保つために、部屋料金を下げた結果、稼働率や宿泊者数は前年より増加したが、売上高・収益は減少した。派遣スタッフなどを活用するも人手不足が補いきれず、宴会や食事提供を一部断らざるを得ない状況にあることも売上高減少に影響している。

外国人旅行客の動向：外国人宿泊客が5割を超えるC社の近年の宿泊客の変化としては、昨年の夏ごろから中国からの宿泊客を上回る勢いで韓国からの宿泊客が増加傾向にあることが挙げられる。宿泊客の平均宿泊日数は連泊が増加した。C社を起点とした府内のドラッグストアでの買い物のほか、近隣のグルメスポット巡りや、USJなどのレジャー施設で楽しんでいるようである。

独自の取組：近年、宿泊施設が増加傾向にあり、業界全体として宿泊客確保の競争傾向が続くと考えられる。C社では、ブログやSNSでの広告よりも、館内でのサービスの充実を図ることに重点を置いている。このため、館内での宿泊に満足しリピーターとなる顧客も増えてきた。また、館内の空気を綺麗に保つよう工夫し、タバコの煙を嫌う外国人旅行客に対しても高評価を得ている。顧客満足度を高め、充実した大阪滞在となるよう1人1人に対し丁寧な接客を行っているところにC社の特長が見受けられる。
(山田 麻由)

大阪府の消費に関する経済指標

※Pは速報値を表す (単位：百万円、台、%)

		29年	4月	5月	6月	7月	8月	9月
大型小売店計	販売額 全店ベース	141,860	144,869	142,536	163,980	139,673 P	139,542	
	(前年同月比、全店ベース)	1.3	1.1	2.3	1.6	2.3	P 5.9	
	(前年同月比、既存店ベース)	2.1	2.2	3.6	2.8	4.2	P 7.4	
うち百貨店	販売額	70,277	72,502	71,650	88,897	66,085 P	70,238	
	(前年同月比、全店ベース)	1.3	3.2	4.6	3.0	4.0	P 10.0	
	(前年同月比、既存店ベース)	3.1	5.2	6.9	4.8	7.3	P 13.0	
うちスーパー	販売額	71,583	72,367	70,887	75,083	73,588 P	69,304	
	(前年同月比、全店ベース)	1.2	▲0.9	0.0	0.0	0.9	P 2.0	
	(前年同月比、既存店ベース)	1.1	▲0.7	0.4	0.5	1.6	P 2.2	
コンビニエンスストア 販売額及び店舗増減	販売額 全店ベース	63,939	66,340	65,731	72,534	70,928	67,086	
	(前年同月比、全店販売額)	3.6	5.0	3.9	4.5	4.7	4.5	
	店舗数(前年同月比)	3.6	3.1	2.9	2.8	2.6	2.6	
乗用車新車販売	台数	15,609	16,511	20,360	18,020	15,153	22,491	
	(前年同月比)	7.9	10.0	14.3	2.0	▲0.2	5.3	
家電大型専門店販売	(前年同月比)	2.9	1.2	▲3.2	8.0	7.5	3.4	

資料：【大型小売店販売額】近畿経済産業局「百貨店・スーパー販売状況」。

【コンビニエンスストア販売額】経済産業省「店舗増減統計」。

【乗用車新車販売台数】(社)日本自動車販売協会連合会、(社)全国軽自動車協会連合会。

【家電販売額】経済産業省「店舗増減統計」。